

令和元年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田光陵高等学校

学校教育目標	1 進取の気性を持ち、知徳体が調和し、心身ともに健康な人間を育成する 2 高い専門性と国際的な視野を持ち、公益の心を持つ創造力豊かな人間を育成する 3 地域の産業や文化・環境を理解し、地域を大切に思う人間を育成する		重点目標	1 豊かな心と健やかな体の育成 2 社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成 3 学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり
目指す学校像	1 普通教育と専門教育を併せ持つ、学際的な教育を展開する高校 2 特色ある教育活動を展開し、多様な進路希望を実現できる高校 3 公益活動、自然環境の保護、及び国際化に取り組む高校 4 地域と連携・交流し、地域社会の発展を担うリーダーを育成する高校 5 スポーツ・文化活動の地域拠点校としての役割を担う高校	育てる生徒像		

達成度	A・・・達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

自己評価(年間)						学校関係者評価	総括
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1	豊かな心と健やかな体の育成	①笑顔とやさしさ、挑戦する勇気を育む教育の推進 ②端正な装いと元気で明るい挨拶の推進 ③心身の健康バランスを育てる部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、校外外ともに評価が高い。生徒の規範意識が高くルールを遵守しようとする気持ちが強い。 運動部、文化部ともに活発な活動ができている。戦績としても全国優勝入賞を果たすことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の高さをとおして、さらに自己肯定感や自尊感情を育みたい。 「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、魅力ある部活動とその活性化に継続して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 元気のよい挨拶等、校内の雰囲気が良い。 学校経営計画に従った教育活動が成果を収めている。生徒の満足度が高いことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の重点目標を概ね達成できました。その中でも特に「生徒の満足度」に留意しつつこれからも社会人育成に力を注いでまいります。生徒一人ひとりが多種多様に持っている力を発揮し成長できるよう指導してまいります。 自尊感情を高めるとともに、多様性を理解する経験が重要です。外に出て異文化に触れることで自分や地元がより分かるようになる仕組みづくりを今後進めてまいります。 ICT機器やSNSの活用で、教育効果を最大限高めるための取組みを継続します。 生徒の学習活動のため、一般社団法人SKIESの活動を今後も積極的に発信いたします。
2	社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成	①社会人基礎力を育てるキャリア教育の充実 ②基礎学力の定着に資する、授業改善の研究と実践 ③生徒の主体的な学びに資する、新たな授業方法の研究と実践	<ul style="list-style-type: none"> 個の学習到達度に応じた効果的な教材や学習指導法の開発に向けて研究を深めることができた。 普通教室におけるWi-Fi環境や黒板投影プロジェクトなどICT環境の整備を進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用については授業内容や学習活動に合わせて扱えるよう研究する必要がある。 特に、発表する力や伝える力などのコミュニケーション能力を高める授業を意識し、考え抜く力を鍛えて社会人基礎力をさらに高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用で、個に応じた幅広い指導ができる授業をお願いしたい 表現力や発表する力、他人の話を聞く力などは個の得手不得手にも配慮しつつ力を高めてほしい。 	
3	学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり	①地元を知る学びの推進 ②地域貢献に資する教育活動の推進 ③ICTを活用した情報の発信と共有の充実	<ul style="list-style-type: none"> 企業や大学等との連携授業や地域貢献活動をとおして、社会人基礎力を高めることができた。 「さくら連絡網」を採用・活用することで特に家庭との連絡が格段にスムーズになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動やそのベースとなる教育活動が、学校全体のものとなるために、学科や年次に応じてふさわしいものになるように引き続き検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さくら連絡網」のようなツールがあることは、家庭との相互連絡等のために大変良いことである。 「社会人」の定義を生徒達に理解・浸透させることが重要。 	

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで、学校生活に満足できていないと回答した生徒達にもきちんとした手立てを考えていく必要がある。 ICT機器やSNSの活用と心(対人コミュニケーション等)のバランスを意図して、社会人として必要な基本的対人スキルの養成も見失わないでほしい。
--------------------	---